

介護ロボット等活用推進事業

令和2年度導入効果検証事業
事業実施報告書

移乗支援（非装着）

HugT1-02

令和3年3月



社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ

1. 主旨

株式会社 FUJI「HugT1-02」を、医療法人幸世会介護老人保健施設セントラル内田橋に導入し、従来行っていた人力による移乗方法を見直すことで、職員間による介護技術の差を少なくし、ベッド周辺での移乗やトイレでの立ち上がり動作の職員の負担軽減と、入所者への安心・安全な介護の提供について効果検証を行ったため報告をする。

2. 課題

人力による移乗介助は職員間に介護技術の差がみられるため、車椅子・ベッド間の移乗やトイレ移乗時の職員の介護負担が大きく、介護中の事故原因となり入所者に安心・安全な介護の提供ができないことがある。

3. 実施方法

課題に対して、下記（１）～（６）の状況を設定して、HugT1-02の使用状況について記録し、検証を行う。

（１）対象者

職員 33名（介護職員 25名 看護師 8名）

平均要介護度 4 平均年齢 84.8歳 片麻痺、膝の関節拘縮、体重過多等によって、人力による移乗介助に負担が大きい入所者 5名。

（２）機種

株式会社 FUJI 「HugT1-02」 合計 2台

（３）使用時間帯

業務内で利用できる時間帯で使用

（４）使用場面

ベッド・車椅子間の移乗、トイレ・車椅子間の移乗、ベッド・トイレ間の移乗など

（５）計測期間

令和2年9月30日～令和3年1月7日（HugT1-02 導入開始日 10月9日）

（６）評価内容

・施設職員 33名に対して、HugT1-02の導入前に機器使用に関するアンケート、Hug導入後の機器に関するアンケート（1ヶ月後・2ヶ月後・3ヶ月後）を実施。

・入所者 5名に対して、HugT1-02を使用した移乗と、人力による移乗場面において、安心・安全性に関する項目「問題なし」「少し手間取った」「不安があった」「危ない場面があった」の回数を記録。

・ワークショップ（2回）による Hug T1-02 利用状況のヒアリング。

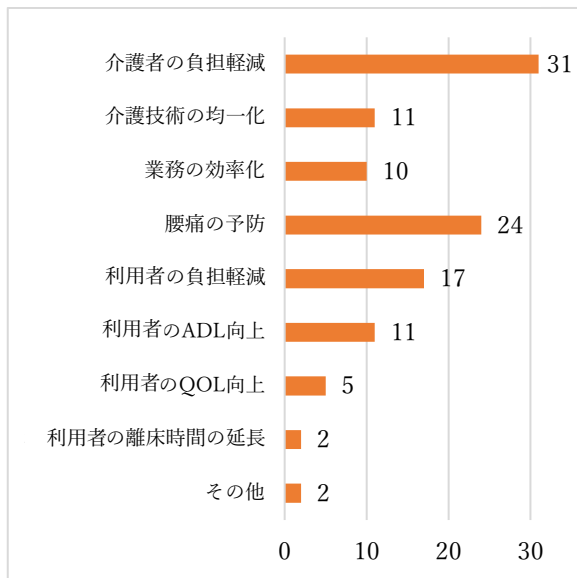
4. 結果

【機器使用に関するアンケート】

(1) HugT1-02 導入前アンケート

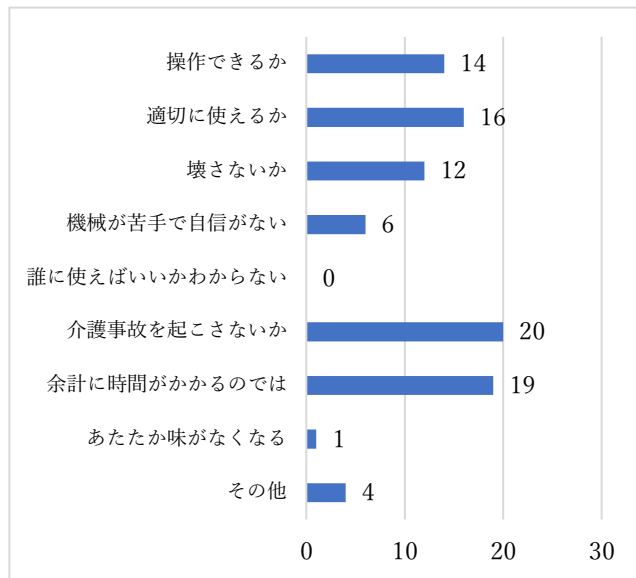
1) 介護ロボットに期待していること

(複数回答可)



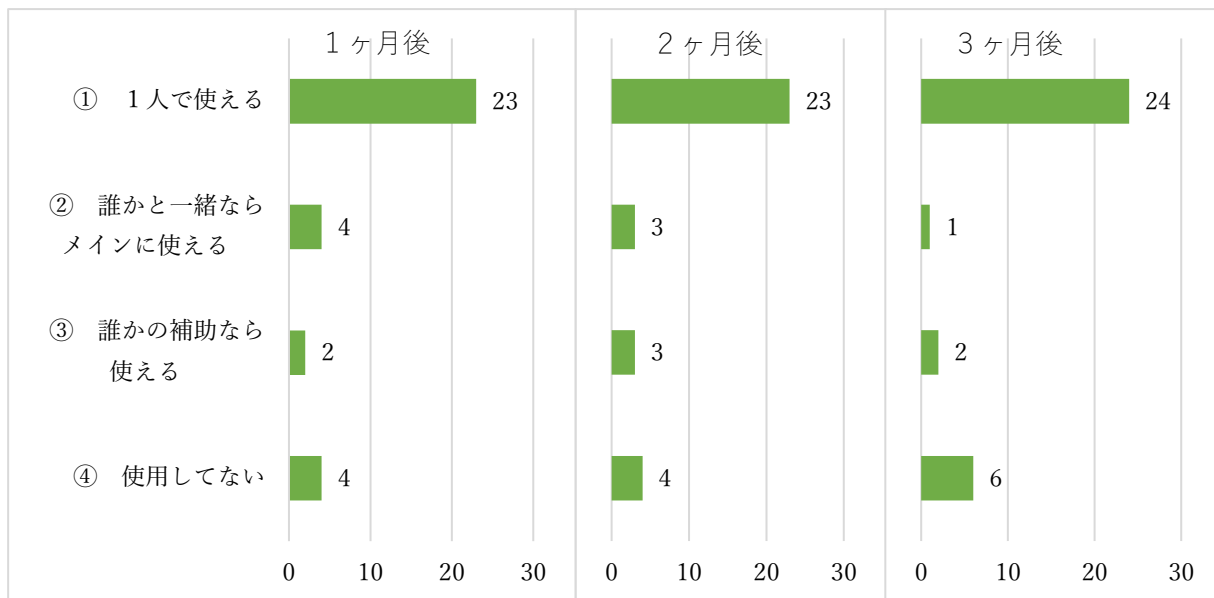
2) 介護ロボットの導入にあたって不安なこと

(複数回答可)

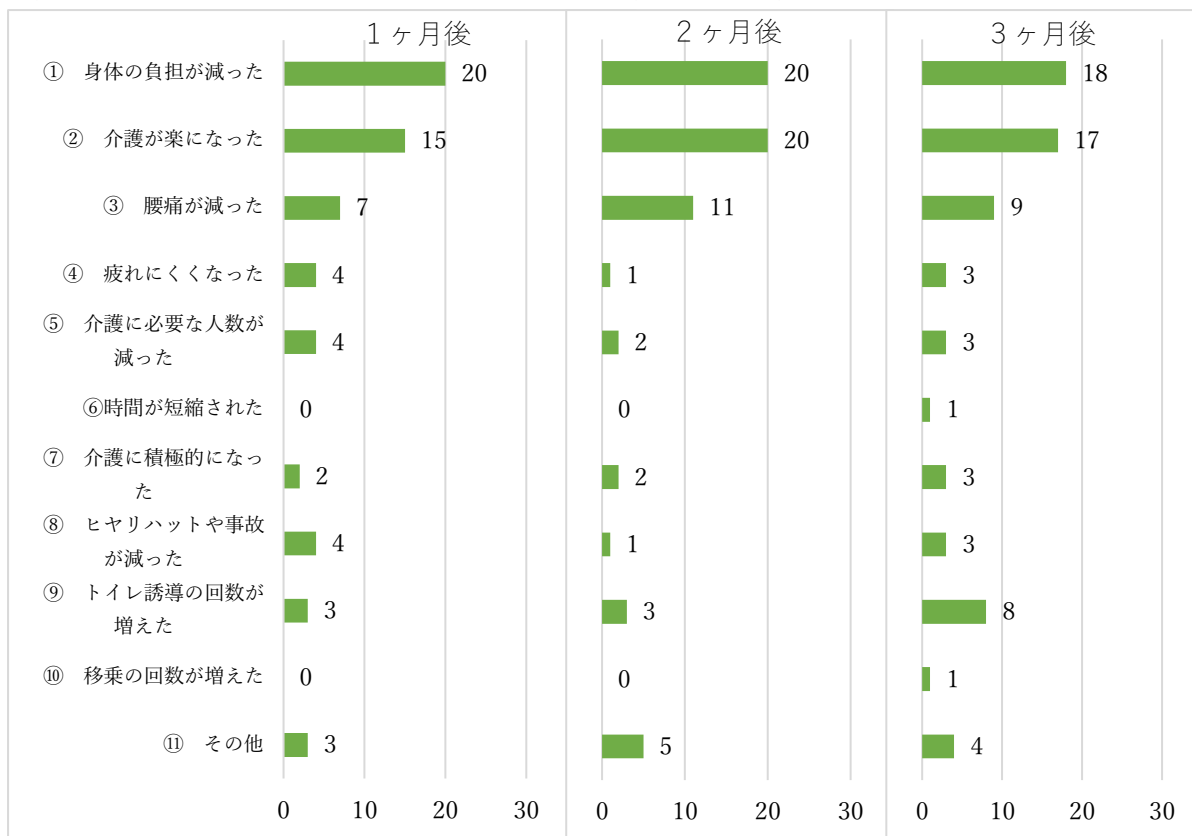


(2) HugT1-02 導入 1 ヶ月後・2 ヶ月後・3 ヶ月後アンケート

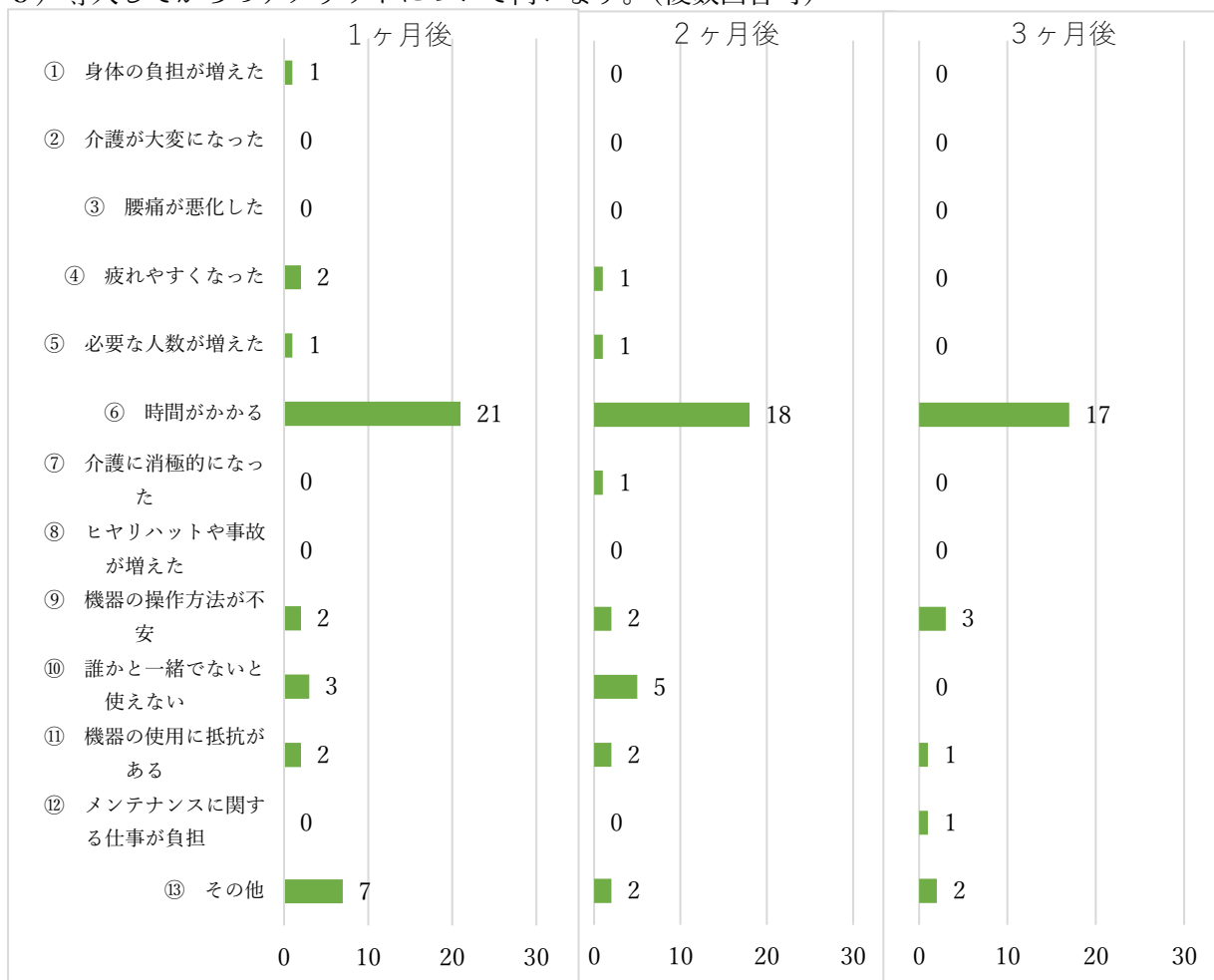
1) HugT1-02 を使いこなせていますか？



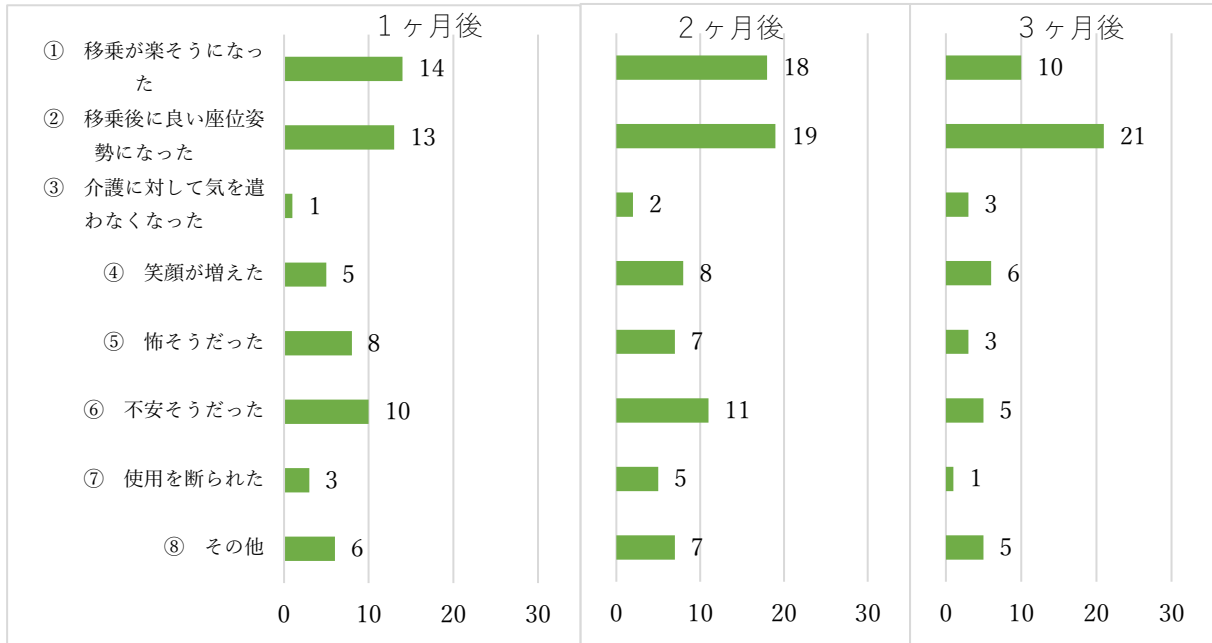
2) 導入してからのメリットについて伺います。(複数回答可)



3) 導入してからのデメリットについて伺います。(複数回答可)



4) 利用者の様子について (複数回答可)



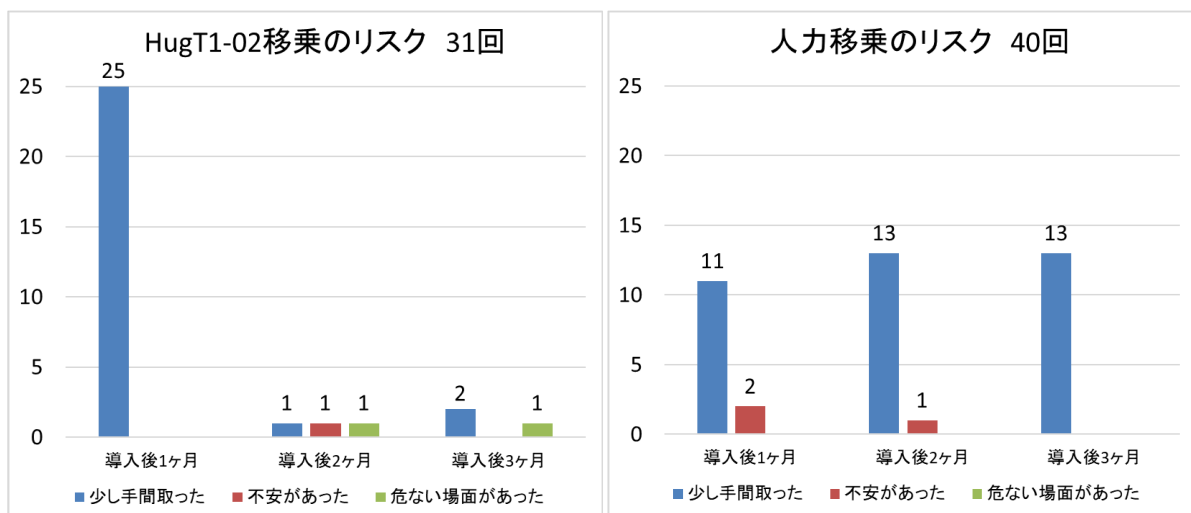
(3) 【安心・安全性についての記録】

1) HugT1-02 を使用した移乗と、人力による移乗において、安心・安全性に関与する項目「問題なし」「少し手間取った」「不安があった」「危ない場面があった」の回数を記録した。

	事故リスクがある項目			
	問題なし	少し手間取った	不安があった	危ない場面があった
HugT1-02 移乗	293 回	28 回	1 回	2 回
人力移乗	528 回	37 回	3 回	0 回

2) 事故リスクがある 3 項目の経時的変化

HugT1-02 移乗と人力移乗の比較



3) HugT1-02 移乗と人力移乗の回数と事故リスクの変化

事故リスク率	全移乗回数 HugT1-02 移乗 324 回 (36%)	人力移乗 568 回 (64%)
導入後 1 ヶ月	25/117 回 (21%)	13/196 回 (7%)
導入後 2 ヶ月	3/96 回 (3%)	14/171 回 (8%)
導入後 3 ヶ月	3/111 回 (3%)	13/201 回 (6%)

・ HugT1-02 移乗は全移乗回数の 36%を占める。導入後 1 ヶ月の事故リスクは 21%と高いが、導入後 3 ヶ月では 3%と低下する。

・ 人力移乗は全移乗回数の 64%を占める。導入後 1 ヶ月の事故リスクは 7%と高くはないが、導入後 3 ヶ月においても 6%と大きな低下はしない。

(4) ワークショップヒアリング

①HugT1-02 使用時の効果

・ 移乗時に最大 2 人による人力移乗を行っていたが HugT1-02 使用により 1 人介助が可能となり、職員の約 6 割が「身体的な負担は減っている」「介護が楽になった」と回答している。

・ HugT1-02 を使用時は、利用者の手足の位置が安全な場所に固定されるため、人力移乗時に起こりやすいベッド柵などにぶつかって起こる表皮剥離や内出血などの事故報告がなくなった。

・ HugT1-02 の着座動作は、人力移乗時と比較して、より座面に深くまっすぐに座ることができ、移乗後の体の傾きが減り、座位姿勢の改善が見られた。座り直しが必要なくなることが増え、入所者の臀部の発赤が改善し褥瘡予防にもつながった。

・ 便器での排泄時に HugT1-02 のアームを装着したままにすることで、座位を保持できるため、ベッド上おむつ排泄を検討していた入所者にもトイレでの排泄機会を提供することができた。

②HugT1-02 使用における課題

・ 職員の約 6 割が「時間がかかる」ことをデメリットと感じている。特に機器に足を乗せる、前屈みを促すといったセッティングの過程に時間がかかるといった理由で、早朝帯や夜間帯などではあまり使用されなかった。

③HugT1-02 を導入する施設に向けてアドバイス

・ HugT1-02 を効果的に使用するためには、機器の特性を理解し継続利用することである。職員が主体的に取り組み続けられるよう各フロアで HugT1-02 のサポートをリアルタイムに行う担当者を決め、職員と利用者の双方が機器を使いやすい体制を整える必要がある。

5. まとめ

HugT1-02 は、非装着型の移乗支援機器として、移乗に伴う介護者の身体負担を軽減する効果が期待される介護ロボットである。人力による移乗介助では、経験や介護者と利用者の体格差によって移乗方法が異なり、抱え上げによる移乗介助においては身体負担の原因になると言われている。今回対象となった施設では、従来人力による移乗介助を行っており、職員間に介護技術の差がみられ、車椅子・ベッド間の移乗やトイレ移乗で職員の介護負担が大きく、利用者に安心・安全な介護の提供ができていないことが課題であった。

HugT1-02 を3ヶ月間に渡り導入したところ、移乗場面における身体の負担が減り、介護が楽になった、という結果を得た。これは、人力で行っていた移乗方法から、機器を使用した身体負担の少ない移乗方法へ変更し、移乗の技術が均一化されたことで職員間の介護技術の差が補われたためと考える。

もう一つの課題である移乗時の安心・安全な介護の提供について、HugT1-02 を使用した移乗と人力による移乗の様子を「問題なし」「少し手間取った」「不安があった」「危ない場面があった」に分けて比較したところ、HugT1-02 の移乗は、導入1ヶ月後の事故につながるリスクは21%（25回）と高いが、2ヶ月、3ヶ月後には3%（3回）とリスクが低下した。一方、人力による移乗は、導入1ヶ月後は7%（13回）であり3ヶ月後においても6%（13回）とリスクが大きく低下することは無かった。HugT1-02 の移乗は人力移乗と比べて事故につながるリスクは低く、HugT1-02 を使用した移乗は、安心・安全な介護の提供につながると考えられる。

HugT1-02 を使用した移乗は、導入を始めた段階では使用方法に不慣れであり、使用を不安に思う回数が多いが、使用方法が定着すれば人力による移乗と比べて、介護負担の軽減と安心・安全な介護の提供ができることが分かった。今後も、HugT1-02 を使用し職員間の介護技術の差を補うことで、身体負担の軽減と安心・安全な介護が継続できるよう、使用の課題の一つであるセッティング等に時間を要する点について解決が期待される。

資料

- ① 介護ロボット導入効果検証 計画書スケジュール（進捗管理表）
- ② 評価用紙（導入前アンケート、導入後アンケート）
- ③ ワークショップ資料1回目、2回目

その他

令和2年度 介護ロボット導入効果検証協力事業所募集要項（再募集）

資 料

- ① 介護ロボット導入効果検証 事業スケジュール（進捗管理表）
- ② 評価用紙 1) HugT1-02 導入前アンケート
2) HugT1-02 導入後アンケート
- ③ ワークショップ資料

介護ロボット導入前アンケート

この度、介護ロボットを導入するにあたって、アンケートにご協力をお願い致します。

あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

1. 介護ロボットに期待していることは何ですか。

- 介護者の負担軽減 介護技術の均一化 業務の効率化
 利用者様の負担軽減 利用者様の ADL 向上
 利用者様の QOL 向上 利用者様の離床時間の延長
 その他(下の [] 内に記入してください。)

[]

2. 介護ロボットの導入にあたって不安なことはありますか。

- 操作に慣れるか 適切に使えるか 機械が苦手
 壊さないか 誰に使えばいいか分からない
 介護事故を起こさないか 余計に時間がかかるのでは
 暖か味がなくなる
 その他(下の [] 内に記入してください。)

[]

ご協力ありがとうございました

介護ロボット利用アンケート

フロア (階) 年代 (20・30・40・50・60代) 氏名:

1. HugT1-02 を使いこなせますか。

- ① 1人で使える ② 誰かと一緒にならメインで使える
③ 誰かの補助なら使える ④ 使用していない(理由:)

2. 導入してからのメリットについて伺います。(複数回答可)

- ① 身体の負担が減った ② 介護が楽になった ③ 腰痛が減った
④ 疲れにくくなった ⑤ 介護に必要な人数が減った ⑥ 時間が短縮された
⑦ 介護に積極的になった ⑧ ヒヤリハットや事故が減った
⑨ トイレ誘導の回数が増えた ⑩ 移乗の回数が増えた
⑪ その他

[]

3. 導入してからのデメリットについて伺います。(複数回答可)

- ① 身体の負担が増えた ② 介護が大変になった ③ 腰痛が悪化した
④ 疲れやすくなった ⑤ 必要な人数が増えた ⑥ 時間がかかる
⑦ 介護に消極的になった ⑧ ヒヤリハットや事故が増えた
⑨ 機器の操作方法が不安 ⑩ 誰かと一緒でないと使えない ⑪ 機器の使用に抵抗がある
⑫ メンテナンスに関する仕事が負担
⑬ その他

[]

4. ご利用者様の様子について(全般的に)(複数回答可)

- ① 移乗が楽そうになった ② 移乗後に良い座位姿勢になった
③ 介護に対しての遠慮がなくなった(いい意味で) ④ 笑顔が増えた
⑤ 怖そうだった ⑥ 不安そうだった ⑦ 使用を断られた
⑧ その他

[]

5. その他(自由記入)

[]

令和2年度 介護ロボット等活用推進事業 介護ロボット導入効果検証 ワークショップ1回目

日時：令和2年12月9日水曜日 15:00～16:00

場所：医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋

協力事業所：医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋

介護ロボット：移乗（非装着）

移乗サポートロボット HugT1-02（株式会社FUJI）

参加者

1	協力事業所	森 智之	医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋 作業療法士
2	協力事業所		医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋
3	協力事業所		医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋
4	メーカー	小川智子	株式会社FUJI
5	サポート	富板 充	なごや福祉用具プラザ 作業療法士
6	サポート	長尾美幸	なごや福祉用具プラザ 作業療法士
7	サポート	長束晶夫	なごや福祉用具プラザ リハビリテーション工学技師
8	行政	佐伯恵美	名古屋市高齢福祉部介護保険課施設指定係

活動内容

〈狙い/成果〉

老人保健施設セントラル内田橋のHugT1-02の導入・活用状況を確認・共有する。

老人保健施設セントラル内田橋の課題に対する効果を確認・意見交換を行い、適切かつ効果的な利活用につなげる。

	時間	狙い/目標	活動内容/問い
1	15:00 (5分)	オープニング	・挨拶・自己紹介 ・事業趣旨・ワークショップの目的の確認
2	15:05 (10分)	情報を共有する	・アンケート結果の確認
3	15:15 (20分)	情報整理・共有	・現場課題と効果、使用状況の確認 ・使用者、対象者の確認
4	15:35 (15分)	情報整理・共有	・今後の課題、利活用について意見交換
5	15:50 (10分)	成果を確認する クロージング	・まとめ、今後の予定確認

資料 事業実施計画書
アンケート結果

令和2年度介護ロボット等活用推進事業

介護ロボット導入効果検証 医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋 移乗サポートロボットHugTI-02 ワークショップ1回目



事業団マスコットキャラクター
「りはみん」

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ

本日の流れ

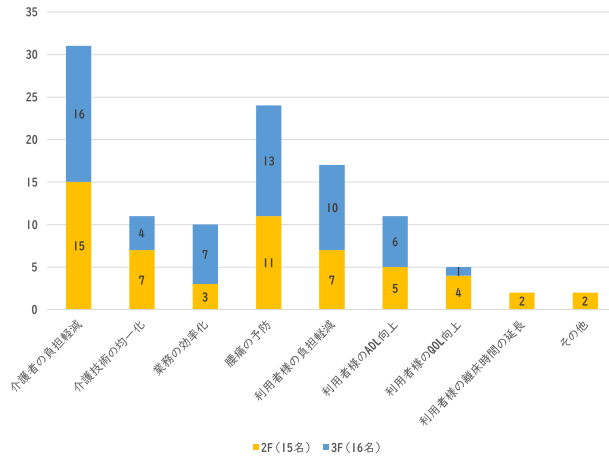
〈狙い/成果〉

老人保健施設セントラル内田橋のHugTI-02の導入・活用状況を確認・共有する。
老人保健施設セントラル内田橋の課題に対する効果を確認・意見交換を行い、適切かつ効果的な利活用につなげる。

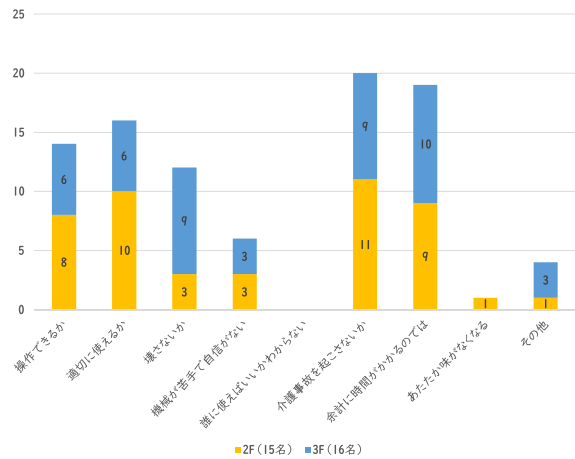
1	15:00 (5分)	オープニング	・挨拶・自己紹介 ・事業趣旨・ワークショップの目的の確認
2	15:05 (10分)	情報を共有する	・アンケート結果の確認
3	15:15 (20分)	情報整理・共有	・現場課題と効果、使用状況の確認 ・使用者、対象者の確認
4	15:35 (15分)	情報整理・共有	・今後の課題、利活用について意見交換
5	15:50 (10分)	成果を確認する クロージング	・まとめ、今後の予定確認

導入前アンケート結果

1. 介護ロボットに期待している事は何ですか。

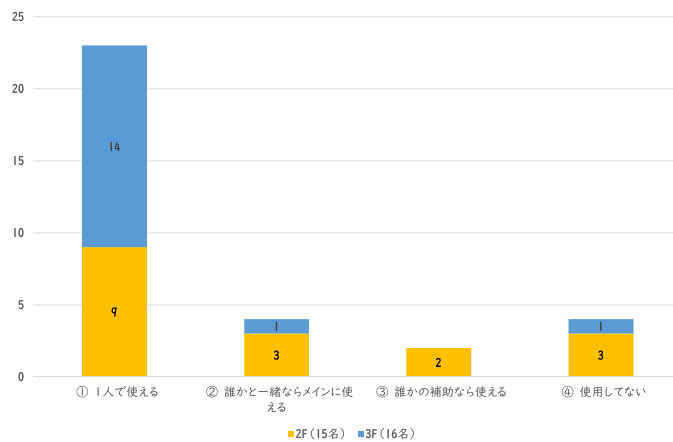


2. 介護ロボットの導入にあたって不安な事はありますか。



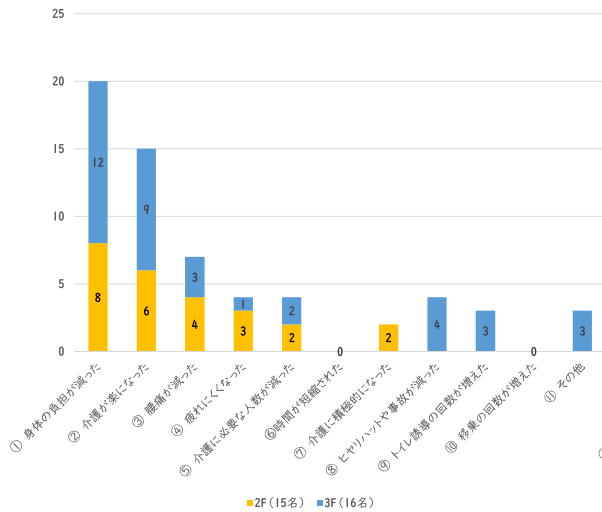
利用アンケート(1回目)

1. HugT1-02を使いこなせていますか？

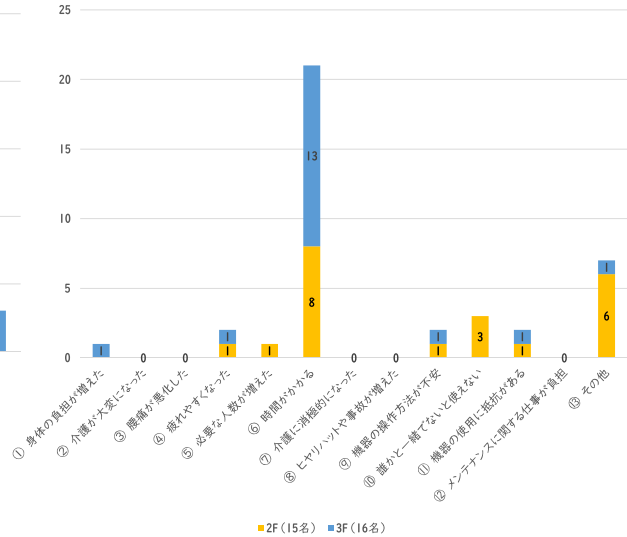


利用アンケート(1回目)

2. 導入してからのメリットについて伺います。(複数回答可)

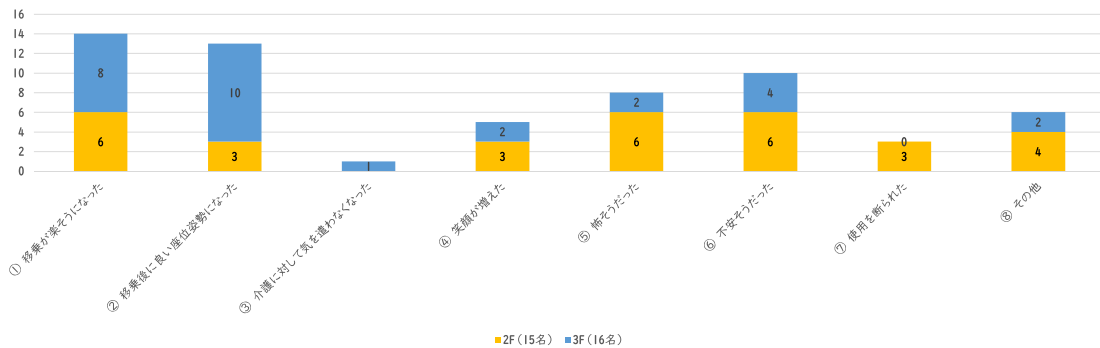


3. 導入してからのデメリットについて伺います。(複数回答可)



利用アンケート(1回目)

4. ご利用者様の様子について



対象者情報(6名)

資料③

ワークショップ 2

令和2年度 介護ロボット等活用推進事業
介護ロボット導入効果検証 ワークショップ 2 回目

日時：令和3年1月26日火曜日 15:00～16:00

場所：医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋

協力事業所：医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋

介護ロボット：移乗（非装着）

移乗サポートロボット HugT1-02（株式会社FUJI）

参加者

1	協力事業所	森 智之	医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋 作業療法士
2	協力事業所		医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋
3	協力事業所		医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋
4	メーカー	小川智子	株式会社FUJI
5	サポート	富板 充	なごや福祉用具プラザ 作業療法士
6	サポート	長尾美幸	なごや福祉用具プラザ 作業療法士
7	サポート	長束晶夫	なごや福祉用具プラザ リハビリテーション工学技師
8	オブザーバー	近藤 穰	なごや福祉用具プラザ 所長

活動内容

〈狙い/成果〉

老人保健施設セントラル内田橋のHugT1-02の導入・活用状況を確認・共有する。

老人保健施設セントラル内田橋の課題に対する導入効果を確認・意見交換を行い、結果を共有し、今後の普及につなげる。

	時間	狙い/目標	活動内容/問い
1	15:00 (5分)	オープニング	・挨拶 ・事業概要・ワークショップの目的の確認
2	15:05 (10分)	情報を共有する	・アンケート結果の確認
3	15:15 (20分)	情報整理・共有	・現場課題と効果、使用状況の確認 ・使用者、対象者への状況確認
4	15:35 (15分)	情報整理・共有	・今後の課題、利活用について意見交換
5	15:50 (10分)	成果を確認する クロージング	・まとめ、事業に関しての意見、今後の予定確認

資料 事業実施計画書
アンケート結果

令和2年度介護ロボット等活用推進事業

介護ロボット導入効果検証 医療法人幸世会 介護老人保健施設 セントラル内田橋 移乗サポートロボットHugTI-02 ワークショップ2回目



事業団マスコットキャラクター
「りはみん」

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ

本日の流れ

〈狙い/成果〉

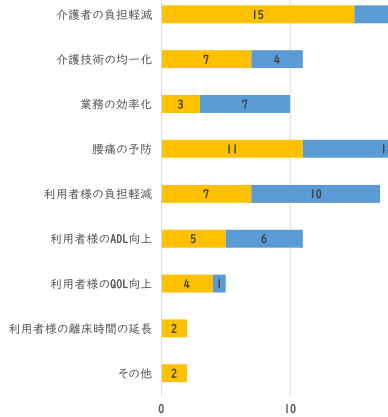
老人保健施設セントラル内田橋のHugTI-02の導入・活用状況を確認・共有する。
老人保健施設セントラル内田橋の課題に対する導入効果を確認・意見交換を行い、結果を共有し、今後の普及につなげる。

1	15:00 (5分)	オープニング	・ワークショップの目的の確認
2	15:05 (10分)	情報を共有する	・アンケート結果の確認
3	15:15 (20分)	情報整理・共有	・現場課題と効果、使用状況の確認 ・使用者、対象者の確認
4	15:35 (15分)	情報整理・共有	・今後の課題、利活用について意見交換
5	15:50 (10分)	成果を確認する クロージング	・まとめ、今後の予定確認

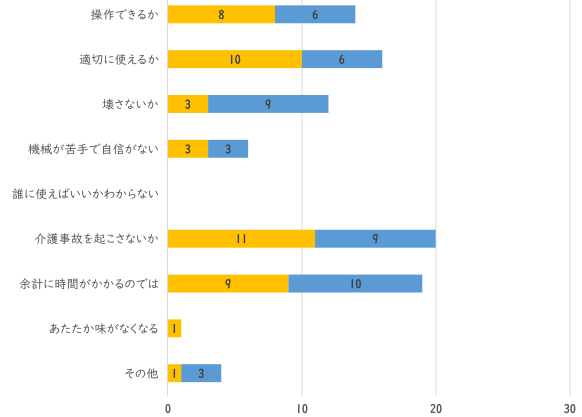
導入前アンケート結果

■ 2F(17名) ■ 3F(16名)

1. 介護ロボットに期待している事は何ですか。



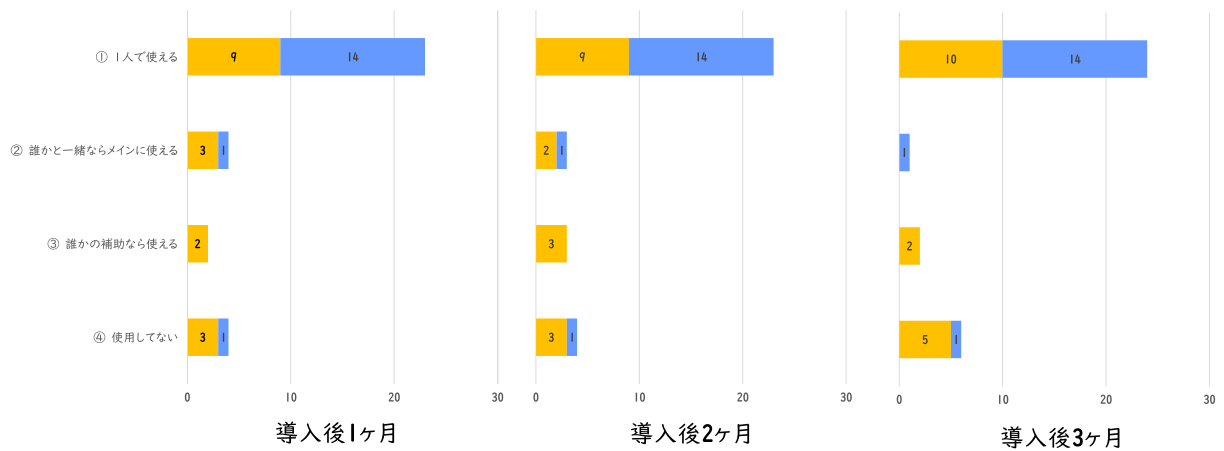
2. 介護ロボットの導入にあたって不安な事はありますか。



導入後アンケート(1・2・3回目)

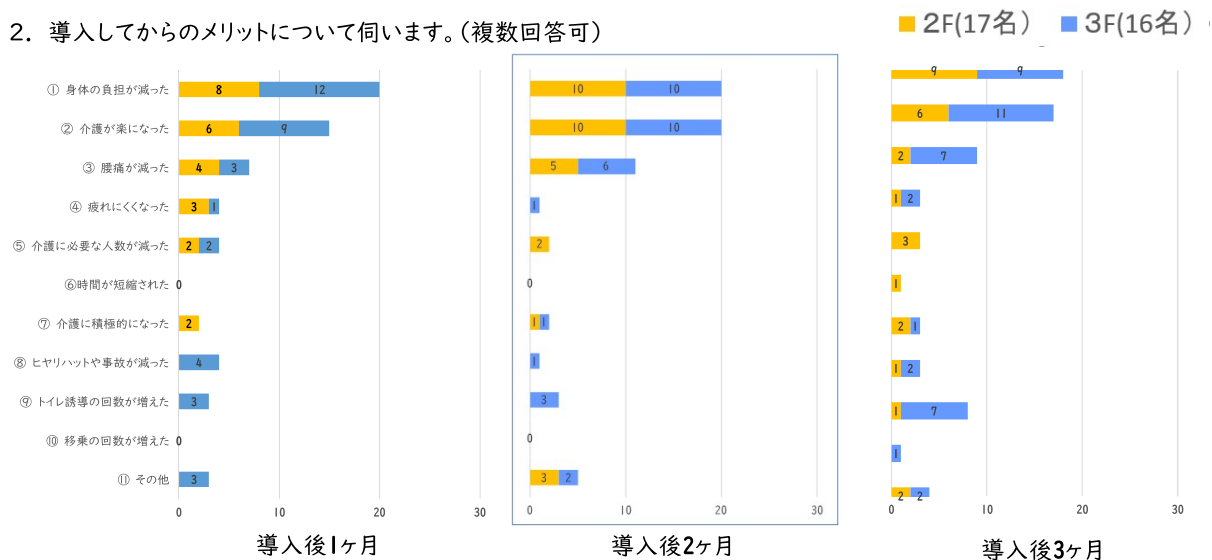
1. HugTI-02を使いこなせていますか?

■ 2F(17名) ■ 3F(16名)



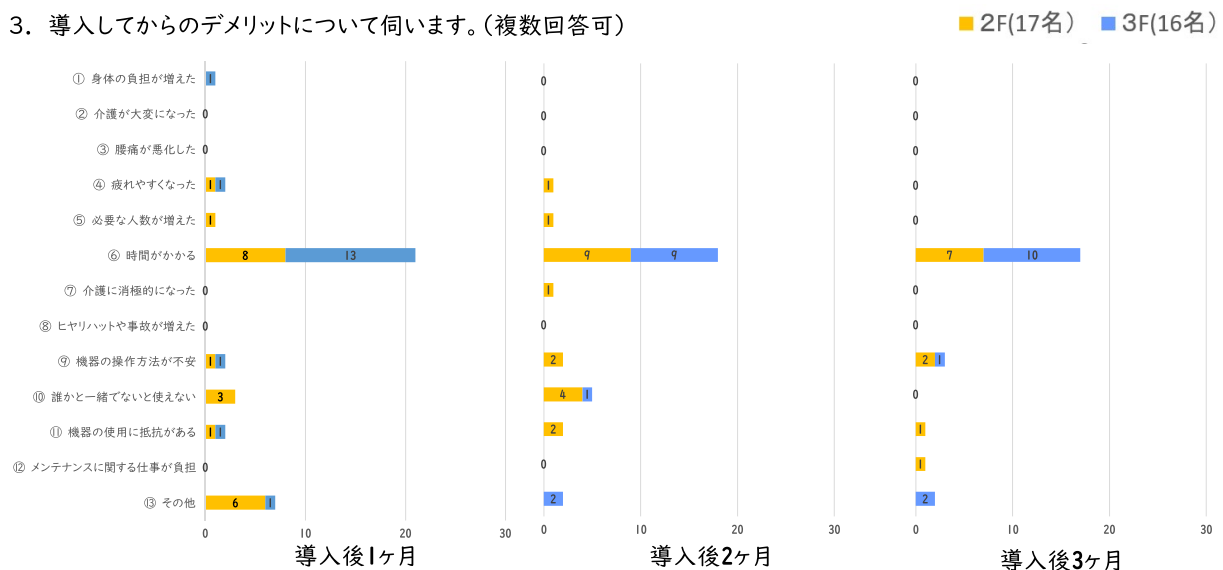
導入後アンケート(1・2・3回目)

2. 導入してからのメリットについて伺います。(複数回答可)



導入後アンケート(1・2・3回目)

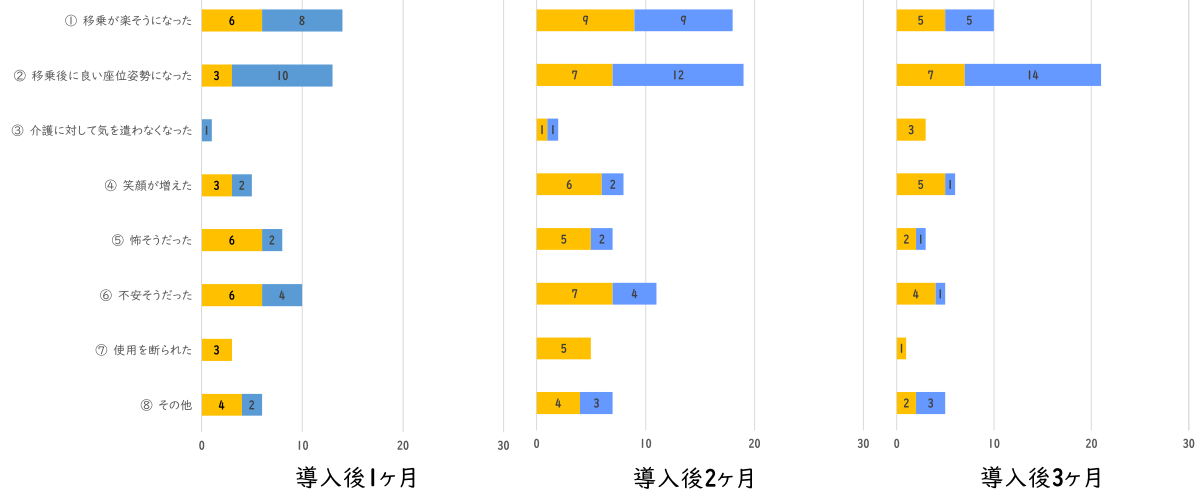
3. 導入してからのデメリットについて伺います。(複数回答可)



導入後アンケート(1・2・3回目)

4. ご利用者様の様子について

■ 2F(17名) ■ 3F(16名)



対象者情報(6名)

• 2F

• 3F

今後のスケジュール

- 介護ロボット導入効果検証 実施報告書作成のお願い (A4:1枚程度)
(内容)効果検証の実施方法
 - HugTI-02を使用しての効果
 - HugTI-02使用における課題
 - HugTI-02を導入する施設に向けてのアドバイス
- 会議出席の謝礼金の申請
- 来年度の普及協力について
セミナー、イベント(介護ロボットフォーラム他)、施設見学など
- その他

ワークショップ 2

Hug 利用前アンケートの結果のまとめと考察

- 基本的に、介護者自身の身体的な負担軽減や腰痛対策としての期待が伺える。
 - 利用者の身体的な負担軽減や ADL の向上といった部分への期待に関しては、半分程度であった。
 - 介護技術の均一化という点においては、半数程度に留まった。
 - 業務の効率化という点については、少数であった。
 - 利用者様の ADL に関する項目に関しては、半数～半数以下となった。
 - 特に離床時間の延長に関しては、全体を通して 2 名のみであった。
-
- 不安な点に関しては、機器のセッティングや操作などに余計時間がかかるのではないかと、転落などの介護事故が起こるのではないかとという 2 点が、一番に挙げられた。
 - 適切に使えるか、操作できるかという事に関しては、職員の半分程度であった。操作や機械が苦手という意見は、50 歳代以上の職員で多く見られた。
 - 誰にを使えばいいかわからないといった対象者の選定に関しては、不安に思っている職員は 0 であった。
 - 温かみがなくなるという意見は 1 名であり、それほど変化はないという職員が多い。

<まとめ>

Hug は移乗用機器という事もあり、介護者の負担軽減に対する期待が大きいことが見て取れる。また、移乗機器を使用する事で、利用者への身体的な負担を軽減出来、ADL の向上へ繋がるのではないかと考えている職員が半分であった事から、ある程度の期待が伺える。余計に時間がかかるのではと考える職員が多い事から、業務の効率化という相対的な項目は少数であったと思われる。

誰にを使えばよいか分からないという項目が 0 であったが、これに関しては、デモ機を借りていた事もあり、誰にを使えばよいかというイメージは出来ていたためと考えられる。

一方で、使用前という事もあるが、機器を使用したからといって、技術が均一化される訳ではないという意識があると考えられる。また、ADL の向上には期待できるが、長時間臥床の利用者の離床時間の延長までは至らないとの事であった。こちらについては、移乗のみの問題ではなく、姿勢保持や全身状態の影響なども考慮されていると思われる。

温かみという点においては、実際の動作は機械が行うものの、実際には人がセットして動かすため、それほど影響は出ないと考えていると思われる。

介護ロボット利用アンケート集計の考察

<全体>

- 2階に関しては、看護師の利用がほぼなく、3階に関しては看護師も使用していた。
- Hugを使用するにつれて、入所者も職員も慣れていき、認知症のある方も手を伸ばしたり、会話したりしながら使用するなどの余裕が見られるようになってきた。
- 人対人の移乗に比べ、機器のセッティングなどの手順が増えるため、時間がかかるとの意見が多かった。ただ、時間はかかるものの、使用開始時に比べれば、短縮されては来ている。
- 移乗後の座り直しが減り、移乗直後から良い姿勢で座れるようになった。
- 身体的な負担は減っているとの回答が、Hug使用職員のほぼ全員に見られた。介護が楽になったという意見も、半分以上で見られた。
- 腰痛に関しては、他の介護業務もあるため、半分程度にとどまっている。

<2F>

- 導入後、移乗時の皮膚剥離などの事故が減った。
- 移乗が大変だった入所者への移乗時の職員の個人差がなくなった。
- トイレ誘導すると、必ず排便をしてくれるようになり、ウォシュレットやボトルを使用して、陰部の清潔を行う事が出来ている。

<3F>

- トイレの誘導回数が増えた。また、ゆっくりと行ける。
- 尿バルーンなどのルートを踏みそうになるため、注意している。

<アンケート外>

- 認知症の入所者で使用したいが、本人が理解できずにすぐ手を放してしまうため、使用できない。 → 検討中
- トイレ誘導の際に使用するが、立っている状態で本人が痛いのではないかと心配になってしまい、なかなか使用できない。 → 姿勢について伝達済み
- 体の緊張が高い方には、バーを持って貰うまでに時間がかかる事があり、どう誘導したらいいか分からない。 → 伝達・練習済み
- トイレ誘導後の臀部の処置が、楽にできるようになった。

その他

令和2年度 介護ロボット導入効果検証協力事業所募集要項

介護ロボット導入効果検証協力事業所募集要項【再募集】

名古屋市健康福祉局高齢福祉部介護保険課

1 はじめに

本市では、介護従業者の負担軽減や定着、介護の質の向上を目的として、介護ロボットの活用を推進するため、令和元年10月より「介護ロボット等活用推進事業」（委託事業）を実施しております。

この事業の一環として、介護保険事業所における介護ロボットの導入効果を検証し、その結果を今後の介護ロボットの普及や活用推進に活かしていくための介護ロボット導入効果検証を行います。

そのため、当該効果検証にご協力いただく介護保険事業所を募集します。

なお、介護ロボット等活用推進事業は「なごや福祉用具プラザ」のもとで行います。

「なごや福祉用具プラザ」について

平成9年事業開始。介護ロボットを含む約1000点の福祉用具の展示、福祉用具や住宅改修に関する無料相談、実習・研修を通じた介護知識・技術の普及を行っています。

また、平成25年から29年に国の介護ロボット普及モデル事業を受託しています。

2 募集対象事業所

(1) 募集数

1事業所

(2) 対象事業所

名古屋市内で運営する以下の事業所で、介護ロボットの導入を検討しており、効果検証に協力できる事業所。

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設、
特定施設入居者生活介護事業所、認知症高齢者グループホーム

※令和2年4月1日時点で開設後3年以上経過していること。

3 応募資格

(1) 名古屋市内にある「2 募集対象事業所」を運営している法人

(2) 介護保険法に規定する欠格事由等に該当しないこと

- ・介護保険法に規定する欠格事由に該当する場合は応募できません。
- ・応募者が、名古屋市暴力団排除条例（平成24年名古屋市条例第19号）第2条第2号に規定する暴力団員等（暴力団員と密接な関係を有する者を含む）、名古屋市が行う事務及び事業からの排除対象者であることが判明した場合は、応募を無効とします。また、暴力団員等であるかどうかを愛知県警察本部長に対し照会することがあります。

(3) 介護保険法及び老人福祉法の規定を遵守していること

介護保険法を始め関係する省令等に定められた基準を満たしていることが必要です。

また、下記に該当する法人（その法人と代表取締役を同一人物とする法人も含む）は応募できません。

- ・応募書類提出時において、介護保険法及び老人福祉法その他法令に明確に違反していると認められる法人
- ・その他、市長が不適切と認める法人

(4) 適正な事業計画の策定

- ・介護ロボットの導入効果検証を行う事業所において当該効果検証に協力可能な体制が整っていることを確認の上ご応募ください。
- ・効果検証の実施にあたり、利用者のプライバシー保護や事故防止の対策をお願いします。

4 効果検証の内容

(1) 介護ロボットの種類

効果検証に使用する介護ロボットは、以下の種別のものであります。要件を満たす介護ロボットを協力事業所において用意していただきます。

どのような介護ロボットを使用するのは、協力事業所として採択された後、なごや福祉用具プラザと調整の上、事業所の課題整理を踏まえて決定していただきます。

移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り支援

以下のアからウの全てを満たすロボットを対象とします。

ア 目的要件

日常生活支援における、移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り支援の場面において使用され、介護従事者の負担軽減効果のあるものであること。

イ 技術的要件

次の（ア）又は（イ）のいずれかを満たすロボットであること

- （ア） センサー等により外界や自己の状況を認識し、これによって得られた情報を解析し、その結果に応じた動作を行うロボットであること
- （イ） 経済産業省が行う「ロボット介護機器開発・導入促進事業」又は「ロボット介護機器開発・標準化事業」において採択された介護ロボットであること

ウ 市場的要件

販売価格が公表されており、一般に購入又はリースできる状態にあること。

(2) 介護ロボットの購入費用の補助について

協力事業所として採択された後に、効果検証に使用する介護ロボットについて、新たに購入する場合は、購入費用に対する補助があります。（他の補助金との重複は不可）

ア 補助対象者 : 協力事業所を運営する法人

イ 補助額 : 購入費用の4分の3に相当する額
(ただし、補助上限額は、1事業所あたり1,000千円)

ウ 補助対象経費: 効果検証に使用する介護ロボットの購入費用
当該補助金を活用し複数台の購入も可能ですが、効果検証に使用する台数のみとします。

エ その他

- ・効果検証に使用する介護ロボットの機種については、なごや福祉用具プラザと調整

の上決定してください。

- ・効果検証に使用する介護ロボットは購入を原則としますが、やむを得ずリースにより新たに導入を行う場合は、3年以上のリース契約を締結するものとし、この場合補助金の対象となる経費は、初年度（申請した年度の年度末まで）に発生したリース料のみとします。
- ・補助金の交付にあたっては、効果検証への協力が条件です。
- ・補助金の交付にあたっては、協力事業所に選定された後、別途手続きが必要です。
- ・効果検証を途中で中止した場合やリースの3年契約を途中で解約した場合には交付した補助金を返還していただく場合があります。

(3) 効果検証の実施期間

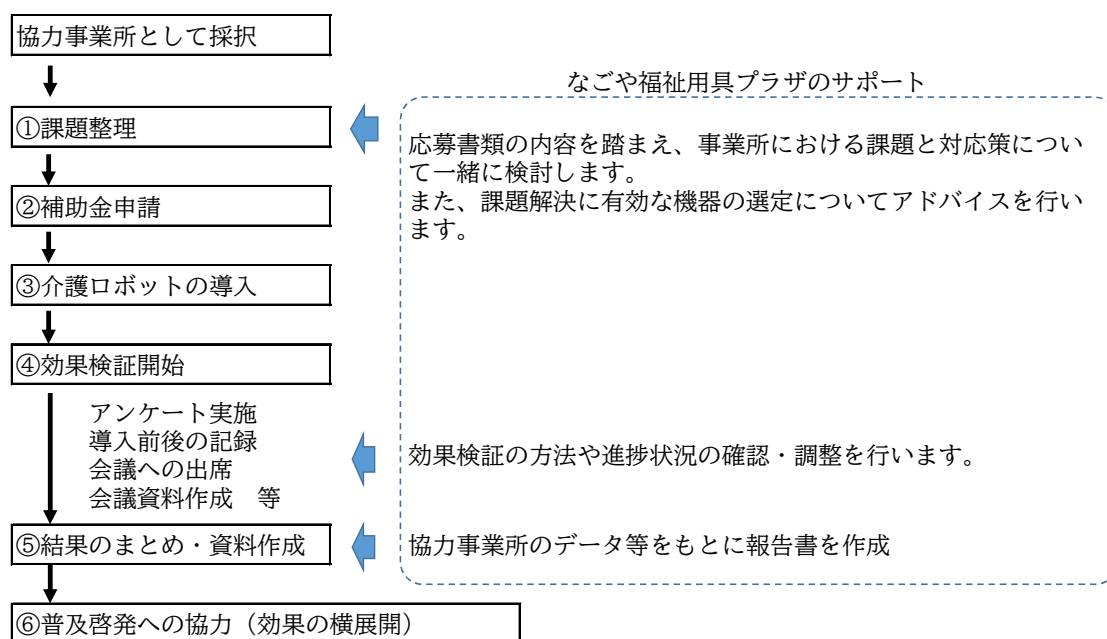
令和2年8月から令和3年3月末まで

※セミナーやフォーラムにおける効果検証の発表等の普及啓発については、令和3年度以降にご協力いただくことになります。

(4) 効果検証の実施

効果検証の実施にあたっては、事業所の課題分析や機種を選定、導入後の効果検証業務について、なごや福祉用具プラザの専門職（リハビリテーション工学技師、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師等）が一体となって協力事業所をサポートします。

<効果検証の流れ イメージ>



(5) 協力事業所における協力内容

事業所にご協力いただく内容は以下のとおりです。あらかじめご了承の上ご応募ください。なお、効果検証の実施にあたっては、なごや福祉用具プラザと相談・調整しながら実施をお願いします。（会議出席に関する謝礼等の協力金あり）

ア 事業所に適した介護ロボットの導入

なごや福祉用具プラザと調整の上、事業所における課題を踏まえて業務改善の目標を設定し、介護ロボットを選定・導入する。

イ 職員への負担を分析するために必要なヒアリング・アンケート等への協力

（介護ロボット使用前、使用后等随時実施）

- ウ 介護ロボットを使用する前後の介護サービスの提供の記録
- エ 介護ロボットを使用しての介護サービスの提供に伴う安全管理、利用者対応その他の事務（当該検証の対象となる利用者及びその家族の同意を書面で取得）
- オ 利用者の自立度分析への協力
- カ 効果検証のための会議への出席、資料作成（会議3回程度、報告書等の作成）
- キ 他事業所・外部からの取材や見学等への対応
- ク 本市及びなごや福祉用具プラザが実施するセミナーやフォーラム等での効果検証の発表（1～2回程度）
- ケ その他、効果検証により得られた成果の普及・啓発に係る事業への協力

5 応募方法

応募される場合は、市へ事前相談のうえ、別にお示しする応募書類を提出してください。

○事前相談

応募書類の作成にあたって、事前に担当課へ相談してください。

応募にあたっての留意事項や補助金の手続き、効果検証を実施する場合の留意事項等を確認したうえで、ご応募をお願いします。

○応募書類の提出期限

令和2年6月30日（火）17時まで ※郵送の場合は6月30日必着

【事前相談及び書類提出先】

名古屋市役所 健康福祉局高齢福祉部介護保険課施設指定係（p5問い合わせ先と同じ）
（事前相談又は書類の持参等で来庁される場合は、来庁日時の予約をお願いします。）

※書類は、提出期限までに不足、内容誤り等がないように担当課職員と十分打合せをし、最終確定した書類を提出してください。

※応募書類は、提出期限を過ぎた場合においては、いかなる理由であっても受理いたしません。

6 今後の日程について（予定）

区 分	事 項
令和2年6月30日	○「応募書類」の提出期限（法人→市） ※提出までに市へ事前相談を行う
7月	○書類審査・ヒアリング ○評価委員より意見聴取 ○協力事業所の選定
8月	○選定結果の通知（市→法人）
8月～	○効果検証開始

※上記日程については、事情により変更になることがあります。

7 選定方法と結果について

(1) 審査

提出いただいた応募書類を審査させていただくほか、必要に応じてヒアリングを行います。

(2) 選定

選定基準の概要についてはp 6「介護ロボット導入効果検証協力事業所選定基準」のとおりです。また、最終的な選定は評価委員への意見聴取の上、行います。

(3) 選定結果の通知

選定結果につきましては、採択あるいは不採択にかかわらず「令和2年8月初旬」をめどに各法人あて通知する予定です。

8 留意事項

- 提出いただいた書類に虚偽等がある場合には、応募自体を無効とさせていただきます。また選定後において虚偽等が判明した場合にも採択を無効とさせていただきます。
- 応募書類提出以降の応募書類の内容の変更は認めません。
- 本市が必要と判断した場合は、本市からの書類の追加及び補正を求めることがあります。
- 応募に関して必要な費用は応募者の負担とします。
- 提出書類については理由の如何に関わらず、返却いたしません。
- 提出書類については、名古屋市情報公開条例（平成12年4月1日条例第65号）に基づく開示の対象となることでもありますのでご留意願います。
- 応募いただいた後、あるいは、採択後にやむを得ない事由等で辞退する場合には、辞退理由を明記の上、申請者の署名及び捺印のある辞退届（任意様式）を提出してください。
- 事前相談及び応募書類提出は、運営法人の方の同席をお願いします。代行申請は不可とします。
- 今回の募集に関しましては、当課の指導に従い手続き等を行っていただきます。また、応募いただいた計画が採択された場合についても同様です。
- 採択された場合は、提出いただいた応募書類の写しをなごや福祉用具プラザへ提供します。

9 問い合わせ先

ご不明な点等は、p 7質問送付票により令和2年6月19日までにFAXでお問い合わせください。後日回答いたします。

応募書類の提出は、次までお願いします。ご来庁時には、必ず事前に下記問い合わせ先まで予約をお願いします。

(問い合わせ・書類提出先)

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

名古屋市健康福祉局高齢福祉部介護保険課施設指定係(市役所本庁舎2階)

電話：052(972)2539 FAX：052(972)4147

介護ロボット導入効果検証協力事業所選定基準

	評価項目	具体的な視点	配点
①	応募の目的	・ 効果検証の目的や意義への理解及び当該事業への取組意欲	20
②	効果検証事業の実施体制	・ 効果検証に協力するための人員体制	10
③	効果検証の適性	・ 介護従業者の負担軽減や定着支援に関する取組状況 ・ 介護従業者の負担軽減や定着支援、介護の質の向上について、現状の課題及び介護ロボットに期待する効果	20
合計			50

※本事業に取り組むべき体制が整っていないと判断される場合には、評価点数に関わらず採択はできません。

※合計点が20点未満の場合は採択されません。

※同点の場合は、「③効果検証の適性」の点数の高い方を優先します。

名古屋市健康福祉局高齢福祉部
介護保険課施設指定係担当者 宛

F A X : 0 5 2 - 9 7 2 - 4 1 4 7

T E L : 0 5 2 - 9 7 2 - 2 5 3 9

質問送付票

(介護ロボット導入効果検証協力事業所公募)

送信日	令和2年 月 日 ()
送信元	法人名 : 所在地 : T E L : F A X : 担当者 :
件名	
質問	

令和2年6月19日(金)まで質問を受け付けます。